

-----編集後記-----

◇日本国際賞が、プレートテクトニクスの創始と発展に於ける業績に対して、地球科学分野に与えられた事は、今年の最も大きなニュースのひとつになりました。この賞を主催する国際科学技術財団のご好意により、今月号には、受賞記念講演会の講演要旨を転載させていただく事ができました。国際科学技術財団(川村皓章常務理事=日本国際賞実行委員会委員長)に厚くお礼申し上げます。

◇例年4-6月号には、「地質調査所の研究計画概要」と題する長文の記事が掲載されておりました。この内容は、当所の発行する要覧や年報と重複するところが多いので、今年は割愛しました。これに代わるものとして、特別研究を中心に特集を企画したいと考えております。

◇真夏のような晴天が続き、暑がりの筆者などはショートパンツにはきかえてこの原稿を書いているのですが、印刷になる頃には梅雨に入っているでしょう。憂鬱な天気を吹き飛ばすべく、今月号の表紙とグラビアは、グリーンランドと南極を取り上げて、極地域でまとめてみました。晩秋のニュージーランドから送られてきた河内洋佑氏の記事も今月号に掲載しました。

◇7月号の特集「地質標本館開館10周年」も入稿を完了し、8月号の特集「地震と地盤」の入稿準備を進めております。ご寄稿いただいた皆様にお礼申し上げます。

◇朝日新聞に毎週掲載されたテレビ朝日ニュースキャスター小宮悦子さんのコラムをしばらくの間楽しませてもらった。3月27日の最終回には、600字のコラムを書く苦勞がリズムミカルな文章で語られていたが、毎週というノルマを果たすのは、このような文章を書く人でも大変だったのであろうか。地質ニュースでも、エッセイ風の記事を毎月1頁ずつ掲載出来たらと、いろいろな人をお願いしてきたが、今の所実現していな

い。この編集後記を書くのでさえ、筆者には1時間余りかかるのだから、気の利いた1頁ものというのは、あるいは無理なお願いだっただのかもしれない。

-----佐藤記-----

地質ニュースに寄稿される方へ

1. 地球科学各分野の最近の話題・総説・解説など多方面の原稿を募ります。
2. 原稿は図・表・写真を含め、原則として刷上がり15ページ以内とします。これをこえる場合は事務局に相談して下さい。地質ニュース原稿用紙(25×18字)4枚半が1ページに相当します。
3. ワードプロセッサ使用の場合も、A4判用紙に1行25字とし、行数は20行程度として下さい。
4. 句読点・引用符などもすべて1字とし、句点(。)の次は1字あけて下さい。地質ニュースでは従来読点(,)を使っておりませんでした。今後は使用を認めます。
5. 図・表・写真は本文とは別に1枚1ページとして、それぞれに番号をつけるとともに、希望する掲載サイズを余白に記入して下さい。これらにつける説明文は、本文とは別の原稿用紙に書いて下さい。とくに図と写真は、縮小率を考え鮮明なものを提出して下さい。
6. 原稿の右欄外に図・表・写真の希望する挿入位置を鉛筆で記入して下さい。
7. 表紙やグラビアに用いるカラー写真は、プリント版の他に原版のポジ(スライド)を提出して下さい。プリント版のみの場合は、カビネ〜六切サイズのものに限りです。
8. 原稿は事務局に提出して下さい。編集委員会から受付カードを発行します。掲載は原則として受付順としますが、速報性の高いものは優先的に印刷したいと思います。

地質ニュース編集委員会

地質ニュース編集委員会

委員長:小川克郎
副委員長:佐藤興平・鈴木尉元
幹事:黒田和男・尾上亨
委員:三田直樹・岡村行信・三村弘二・笹田政克・佐藤岱生・小玉喜三郎・武居由之・山口靖湯浅真人

事務局:総務部業務課広報係
〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所
地質ニュース編集委員会
事務局 Tel. 0298-54-3520
Fax. 0298-54-3533

地質ニュース

第430号 1990年6月号
定価 ¥700 千実費

1990年6月1日 発行

編集 工業技術院地質調査所
発行人 林久雄
発行所 株式会社実業公報社

東京都千代田区九段南4の2の12
〒102
Tel. (03)265-0951 (代表)
振替口座 東京1-32466
麹町局私書箱第21号
株式会社実業公報社

総発売元

©1990 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都中央区(丸)八重州ブックセンター本店 とつくば市の友朋堂書店に常備してあります。